

なな

11 月号
vol. 201



「オーエス！オーエス！」
西成区民
体育レクリエーション大会

おとなの 社会科

特論

第13講 歴史 — 松虫物語・前編

おとなの 社会科

第13講 歴史——松虫物語・前編

昔、使った教科書をパラパラめくってみると、あの頃には気づけなかった面白さがみえてきた——そんな経験はないだろうか。学校の教科書は昔と同じではない。だから、大人になってからの学び直しも決してムダではないはず。学校に通ってた頃を思い出して、もう一度、目の前に広がる社会を学び直してみませんか。

草の海に響く歌

それは、今年の春のこと。岸里の街角で、ちりりん、ちりりん、と鳴く季節外れの松虫の音を聴いた。その響きに誘われて、松虫通を真つすぐ東に歩く。

西成区から阿倍野区に入り、上

町台地を長い坂道で上りきると、行く手に松虫塚という小さな塚が見えた(①)。石垣と柵で囲われた中に石碑が林立している。松虫の音はここから届いたようだ。古代の上町台地には大小の古墳や塚が多く築かれ、異界への入り口、接点となっていた。その多く

は宅地化で消失したが、阿倍野区の聖天山古墳や住吉区の帝塚山古墳など、数は少ないが現存しているものもある(第5講「聖天下」参照)。

当時の阿倍野は一面の原野で、大阪湾から吹き上げる潮風が、どこまでも広がる草の海を揺らした。台地の下の西成が、まだ海の底だった頃の話である。松虫の名所として知られ、秋の夜長には多くの人々で賑わったという。そのような場所に築かれた松虫塚は、誰の墓なのか分からないという謎めいた背景もあって、松虫の声にまつわる多くの伝承が残っている。

例えば、こんな話がある。ある月夜の晩、親友である二人の男が阿倍野の原を歩くうち、松虫の音に魅入られた一人が草の海に分け入ったまま戻らなかった。残った男が探しに行くと草に抱かれて死んでいたの、泣く泣くその

場に埋葬した。それが現在の松虫塚なのだという。

“秋の野に人まつ虫の声すなり
我がと行きていざ訪らわん”

残された男が、亡き友を偲んで詠んだ歌だという。松虫がしきりに鳴いているが、誰かを待っているのだろうか。私かもしれないから訪ねてみようという内容で、平安時代前期の『古今和歌集』に収められている。

室町時代に作られた能の演目『松虫』はこの伝承と歌を基にしており、世阿弥の弟子だった金春禅竹の作とされる。阿倍野の市の酒場に、毎日どこからかやって来て酒を飲む若い男がいた。男はかつて草の海の中で親友を亡くした思いを酒場の主人に話し、自分はその友を亡くした男の幽霊であると明かして人混みに姿を消す。

哀れに思った主人が夜の阿倍野の原で経を読んで申うと、再び期は、度重なる戦に加えて水害に大地震、飢饉や疫病などの天変地異が続いていた。こうした乱世の中で生まれた新しい仏教の一つが、法然を開祖とする浄土宗だった。それまでの仏教は貴族など支配層が中心だったが、浄土宗は「南無阿弥陀仏」と一心に念仏を唱えれば誰でも救われると説き、学問と縁のない庶民にも広く受け入れられた。

松虫姫と鈴虫姫

別の伝承では、松虫塚は鎌倉時代初期に京の都で後鳥羽上皇に仕えていた、松虫姫という女官の墓だとされている。松虫姫には、同じく女官を務める鈴虫姫という名の妹がおり、後に姉妹で阿倍野に隠れ住んだという。

都にいた頃の松虫姫と鈴虫姫は、美しく教養もあつたため上皇の寵愛を受けたが、周囲からの激しい嫉妬に苦しんでいた。そんな折、二人は清水寺で法然の説法を聞いて感激し、出家して仏門に入ることを願うようになる。

これより少し前の平安時代末

上皇が都を留守にしていた、1206年の冬の夜。出家を決意した松虫姫と鈴虫姫は、真夜中に御所を忍び出て山道を辿り、東山の鹿ヶ谷へと向かった。法然の弟子である青年僧の住蓮と安樂がこの地に草庵を結び、布教の拠点としていたのである。

“哀れ憂き世の中のことにすたり身
と知りつつ捨つる人ぞつれなき”
松虫姫と鈴虫姫は御所に帰るよう説得されたが、このような歌を詠んで、泣きながら出家を懇願



現在の松虫塚。1980年代に松虫通の拡幅工事で撤去される予定だったが、地域住民の保存運動によって残された



安楽寺に伝わる『住蓮上人松虫姫剃髮図』(左)と『安楽上人鈴虫姫剃髮図』(右)

う朝廷に訴えていたことも重なり、後に「承元の法難」と呼ばれる浄土宗への苛烈な弾圧が始まった。念仏は禁止、教団は解散。出家の手助けをした住蓮と安楽は死罪。法然は75歳という高齢でありながら讃岐へ流罪、法然の一番弟子である親鸞も越後への流罪が決まった。

“極楽に生まれむことの嬉しさに身をば仏に任すなりけり”

“今はただ云う言の葉も無かりけり南無阿弥陀仏の御名の他には、”

住蓮と安楽が詠んだ辞世の歌は穏やかだが、若くして命を絶たれることへの怒りと無念が感じられる。それから4年後、流罪を赦されて讃岐から帰京した法然は、荒れ果てていた鹿ヶ谷の草庵を復興。供養のため二人の名を取って「住蓮山安楽寺」と名付けた。現在、安楽寺の境内には住蓮と安楽の墓、そして松虫姫と鈴虫姫の供養塔も立っている(③)。

都に帰った上皇は、自分の女官を許可なく出家させたことに激怒する。ちよつと比叡山や奈良の興福寺といった旧来の教団が念仏の教えを敵視し、取り締まるよ



1720年に建立された粉河寺本堂。国の重要文化財に指定されている

を聴きに出て帰らなかったのでも鈴虫姫が明け方まで探すと、草の海の中で息絶えていた。鈴虫姫はその場に亡骸を葬り、庵を出てそのまま何処へともなく立ち去ったという。

“経読みてその後訪ふか松虫の塚のほりにちりりんの声”

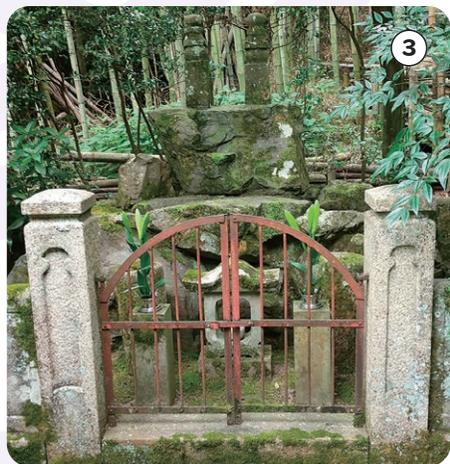
江戸時代中期の大阪の名

紀の川に沿って

盛夏の境内に、灼けるような日差しが降り注ぐ。ここは和歌山県紀の川市、粉河寺(④)。770年に創建され、古くから観音信仰の霊場として栄えた。金剛山地を背後に控えることから、修験道の行場としての歴史もある。

松虫姫と鈴虫姫はこの寺に身を隠したが、以後の行方についてはいくつもの伝承がある。室町時代より安楽寺に伝

わる『松虫姫鈴虫姫和讃』には、舟で安芸の生口島に渡って光明坊という寺に身を寄せたとあり、これが通説となっている。



松虫姫と鈴虫姫の供養塔。安楽寺の奥まった場所にひっそりと立っていた

同じく室町時代の『鹿ヶ谷因縁談』には、二人は住蓮と安楽を心配して都に戻海に出たのだろうか。激しく行き交う車の列の中に、深い夜に紛れて寂しげに歩く二人の後ろ姿を思い浮かべた。

紀の川に架かる鉄橋に立って下流を眺めると、白い帯のような一筋の流れが彼方へと続いている(⑤)。かつて、吉野や高野山で伐り出された木材は紀の川を筏流しで下り、貨物列車に載せ換えられて北津守の貨物ヤードに運ばれていた(第8講「北津守」参照)。こんなところにも、西成へと繋がる物語の欠片が落ちてい

る。ここから加太ヶ浦まではおよそ30キロ、生口島はさらに瀬戸内の海を伝った遥か向こうにある。

川のせせらぎに耳を傾けるうち、ちりりん、ちりりん、と再び頭の中で季節外れの松虫の音。岸里の街角で聴いたのと同じ、物悲しい響きである。それをかき消すように雷が空を貫き、やがて雨が降り始めた。全てを洗い流すような

真夏の夕立に、松虫姫と鈴虫姫の気配が消えていく。二人はどこに行つたのだろう。

荒波のような人間の歴史を横目に、水清き紀の川は今日も静かに流れる。

文責…福井龍磨



粉河の街を流れる紀の川。大和街道と同じく、物資輸送の大動脈だった



にしなりもん

西成にもまだまだ発掘されていない文化資源・社会資源は存在するはず。これら西成産のモノやコトを「にしなりもん」と名づけ、その由来やエピソードを辿っていきます。

「辛さ」の奥にある 「おいしさ」を求めて 「つばき園」

酷暑の夏も終わり、朝晩の涼しさに体を慣らしていく中で食の嗜好も変わってくる今日この頃、何が食べたいだろうかと自身の胃袋に相談すると「辛さ」を求めているようなので、今回は韓国料理のお店「つばき園」を来訪。

つばき園はゆくとあいのすぐ近くで、店前を通るたびに行きたいなと思っていたが、今回満を持しての登場。細い路地の途中に赤い電飾看板が目立つ佇まい。筆者は韓国料理を普段あまり食べないため、期待に胸膨らませて暖簾をくぐる。

ママに聞くと開店から約8年経ったとのこと。来訪時はホール担当のスタッフさん2名で切り盛りしていた。オーダーはサムギョブサルと豆腐チゲ。注文後にふと気づいたのは、筆者はサムギョブサルが初めてだということ。そのため、鉄板の横に置いてあるお皿を取り皿だと思って使おうとしたが、鉄

のセットでチョレギサラダもついていて、予想以上のボリュームだなと気を引き締めながらお肉を焼きにかかる。その間にチョレギサラダを食べるがシャキシャキとしていてお箸が進む。

ジュージューと美味しそうな音を立てながら、その横では豆腐チゲがグツグツと見た目にもいい感じでお腹が我慢できずにグーと鳴る。

初めてのサムギョブサルはお肉と野菜がマッチしてとてもおいしい。シャキシャキ野菜とお肉の食べ合わせがこんなに美味しいとは知らず、もともと早くに食べておけばよかったなと思いつながら、2人前を1人でべろりと完食。続いて豆腐チゲ、大ぶりの豆腐を筆頭に具が盛りだくさん。筆者は辛い物が得意というわけではないので、食べすぎめるうちに汗だくになるも、辛さの中に旨味を感じてビールも白米も進む。

次々と料理を平らげて、最後に白米を食べてごちそうさまをしようとした時に、お茶碗を見ると底の部分にかわいらしいネコちゃんのイラストが目に入り、食後にほっこりした気分になる。



板から流れる油受けだったという小ハブニングがありながら、料理が出そうのを待つ。
店内はテーブル席とカウンターだけでなく、座敷もあり、筆者は18時過ぎに訪れたが、次々と家族連れ等のお客さんが来店し、18時半頃にはテーブルと座敷は満席状態。常連さんも多くいるようで、地域に根付いたお店だなと感じる。
付きだしは3品、さらにメイン料理



お店は焼肉もあり、一品料理もたくさんあるので、次回はそちらも食してみようかなと考えるが、お会計を済ませて、ママに「原稿楽しみにしてるよ！」と笑顔で送り出された。胃袋も満足しているようで涼しくなった夜道を良い気分です。

文責：笹川勝正・山村裕太

つばき園
住所：西成区鶴見橋2の11の2
営業時間：17時～21時
定休日：毎週水曜日 第二・第三火曜日
電話番号：06-6567-5689

[沖田一志]Windows10のサポート期間は2025年10月までで、残り2年を切りました。発売当初はWindowsの最終バージョンと発表されたはず。でも、次の製品が発売され、旧製品はサポート終了に。

[笹川勝正]先日子どもの参観日に行くと、社会の授業で防災について。教室の後ろで話を聞きながら、最近防災用品を家で見ていないと思い、探すと非常食が期限切れ。改めて反省。

[田岡秀朋]こどもの居場所をオンライン空間に広げて捉えるのは賛成。でも、安全・安心体制の確立がちょっと心配。「こども110番の家」のようなオンライン見守りもまじめに考えなきゃ。

[谷口円]自宅マンションにカメムシが大量発生。日々怯えながら暮らしています。洗濯物を外に干せないし、網戸の隙間からも入ってくるので窓も開けられない。せっかく気候のいい季節なのに…。

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのジャラジャラ系コラム。

『ジャラジャラと究極の脳トレ』

小学校に上がる前、家の中ではよくジャラジャラジャラという音が鳴り響いていた。祖父母や親戚がよく麻雀を楽しんでいたのだ。膝の上に座って見ていると、「これが筒子でこれが索子で、真ん中ばかり集めたら断么九になるねん。」などと説明されたような記憶があるが、麻雀専門用語が多すぎて何を言っているのかわからなかった。

本誌読者には麻雀を知らない人もいると思う。麻雀をしているときに発する「リーチ！ イツパツ！ ホンイツ！ イツツウ！ ドラドラ！ バイマン！」なんて言葉、何の知識も無ければ、まるで魔法の呪文のようだろう。この言葉の不可解さで「麻雀は難しい」と敬遠してしまう人もたくさんいるはず。筆者もかつては全く意味不明で興味がわかず、麻雀に触れる機会はたくさんあったものの、結局ノータッチのまま高校生になっていた。

高校生のころ祖父母の家にいったときに、ふと麻雀牌が目に入り、「暇やから教えてやるわ」と教えてもらおうと、5歳のころよりは理解力が高まっていたよう得意と簡単だった。す

ごく簡単に説明すると、三種類の1〜9までの牌があり、①②③といった数字の順列並びや⑤⑤⑤など同じ数字のセットを4つ作り、⑨⑨⑨等同じものを2つ揃えるとアガリ、となる。字牌も7種類ほどあるが、同じ絵柄のものを3つ集めて1セットとする。…こうして文章で説明してみると、やはり分かりづらい気がする。ご勘弁いただきたい。

そんなこんなでルールを覚えてからは、家族や友だちとよく麻雀をするようになり、完全にハマってしまった。「麻雀って何が面白いの？」と聞かれることがあるが、正直に言うと「何が面白いかわからないけど面白い」としか言いようがない。麻雀の漫画もよく読むようになり、『アカギ』や『天』、『哲也』といった漫画を読み漁った。これらの漫画は麻雀が分からなくても面白いので、ぜひ読んでみてほしい。囲碁を知らなくても『ヒカルの碁』が面白いのと同じ理屈である。

麻雀はどうしてもギャン



ブルというイメージが強く、あまり良いイメージを持たれないことが麻雀好きからすると残念である。しかし、麻雀ほど色々なことに考えを巡らせる遊びは中々お目にかかれない。「この人は何の牌でアガリなのか、点数は高いのか、左側に引いてきた牌を入れたからクセ的に筒子を引いたのではないかな」と考えることは山ほどあり、究極の脳トレである。普通の脳トレがラジオ体操操なら、麻雀は器械体操である。

麻雀は上手い人が勝つ確率が高いが、プロですら運には勝てず、初心者でも勝つ可能性が十分にある遊びだ。この理不尽さも面白い要素である。

ここまで読んでくれた人は少し麻雀に興味が出てきたのではないだろうか。久しぶりにしたくなった人もいるかもしれない。「ゆくとあい」で月・水・金にやっている麻雀サークルが初心者にも優しく教えてくれることを宣伝してアガリとしよう。役は平和といったところか。

ハンプティ・T



melody of smiles



GCCKidsではヨーロッパで始まったCLIL(クリル)という学習プログラムを取り入れて、英語でScience(科学)、Math(算数)、Social Studies(社会)、Craft(造形)を学びます。宇宙を学ぶ5歳児のScienceクラスでは、ジムの中にSolar System(太陽系)を作りました。大好きな宇宙にみんな興味津々。子どもたちのキラキラした真剣なまなざしが可愛い！



大阪市の住民参加型地域組織「地域活動協議会」の活動に橋を架けよう「近ツ橋【ちかつきょう】」

近ツ橋

長橋ふれあい喫茶「さくら」

毎月第三火曜日は、ゆくとあいでおいしいランチを食べるといっう楽しみがある。美味しいご飯はお金さえ出せば、いくらでも食べることができると、400円という安価で美味しいランチは中々食べられるものではない。

そんな安くて美味しいランチを実現したのが長橋地域活動協議会の取り組み、「ふれあい喫茶さくら」である。食を通じたふれあいの場をつくって「孤立」「孤食」をなくすために、地域のボランティアが調理とホールを務めている。

ふれあい喫茶さくらのランチは「飯、汁物、主菜、副菜にデザートまで付いてくる。ポリウム



たっぷり栄養バランスも良く、おいしいランチを求めて毎回100名以上の方が訪れる。地域の人たちが笑顔で食卓を囲み、お隣の人と会話を楽しむ。そこで生まれるみんなの笑顔が「ふれあい喫茶さくら」で頑張るボランティアのみなさんのやりがいだ。

ふれあい喫茶さくら
 ◎ 毎月第3火曜日
 11時30分〜13時
 ○ にしなり隣保館「ゆくとあい」
 (西成区出城2-5-56)
 ♪ 限定100食



【西田吉志】地域の願いから創立・開校した「西成高校」が今年11月で50周年を迎える。普通科にはじまり、総合選択制、エンパワメントスクール、来年度からステップスクール(多様な教育実践校)とこれからも進化する地域の学校。



【安田拓也】地域の敬老会でヒューマンバンドのメンバーと歌って弾いて楽しんだ。選曲やパート分け、練習を経て本番に挑む。達成感を分か合えるメンバーがいるなんて最高。あと心強い。



【福井龍磨】和歌山県の紀の川市歴史民俗資料館を訪れた。誰もおらず貸切状態。華やかな観光地やテーマパークもいいが、縄文土器や勾玉や古い農機具を眺めて静かに過ごす週末も、それはそれでよい。

葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「白菜の葉っぱ」の巻

生まれ育った畑
お別れの日がやってきた
一緒にすごした仲間
さよならだねと涙した
育ててくれた父さん母さん
たいへんお世話になりました
葉が縮れてシワシワなのは
理由があるからなんだよね
いよいよお店に並んだ
ドキドキしてさらに縮んだ葉っぱ
これからどうなるかは
みなさんの腕しだい
さむい冬
どうぞごひいき願います

赤井まゆみ

白菜の葉っぱのこと

アブラナ科アブラナ属の2年植物。日本では冬の野菜として好まれる。花言葉は「固い結束」「固い団結」

い湯かげん

靴の祭典から何が生まれるか

直近すぎるが、11月4〜5日の「オーラウンド(大阪靴と皮革の祭典)」の紹介。詳しくはAダッシュワーク創造館などのHPやゆ〜とあいに配架されているチラシをご覧ください。『靴のつむじ』第7号を持参して周遊されるのがお勧め。

関西製靴(株)と言えば、靴メーカー協同組合の理事長だった先代の片岡常年社長(故人)の時代から芦原橋に移転して事業縮小されたのだが、ご子息達が「ポロネーゼ製法」という高度な技術を導入して反転攻勢を企てられておられる。このイタリア生まれの靴製造工程を身近に体験できるイベントはJR芦原橋駅高架下で実施される。

靴の製造と小売の仲介工程を飛ばした製造&小売業が勢いを増して、靴卸業界は大変だ。靴卸組合を支えてこられたご尊父の後継者野口貴弘理事長は、靴を買い履くエンドユーザーとの直接対面方式を考案された。そのためには、靴のまち浪速・西成の魅力のアピールが不可欠と、「音楽とエンタメのステージ(YOLOBASE会場)昔の馬淵生活館の跡地」で靴の販売会なども企画されている。

西成製靴塾は鶴見橋商店街に移転した後、大山一哲さんが塾長となり、日本初の学校公認の「西成高校靴づくりクラブ(NSC)」の活動スペースとして話題となった。高校のクラブ活動から靴職人が生

まれるかもしれない。何とも夢のある話だ。イベントでは、靴職人の卵たちが道行く人の靴磨きをしてくれるそう。あの鶴見橋商店街も靴店が減少してしまっただが、どこい製靴塾と西成高校が生きていた。ゆ〜とあいも西成エリアの拠点となる。

このイベント会場の一つのAダッシュワーク創造館には「エスペランサ靴学院」がある。東京浅草から芦原橋への移転後、すでに卒業生を送り出している。その大阪一期生(通算では49期生)の一人岡本あずささんは、京都の廃校となった小学校で靴工房を出店されているから素晴らしい。Aダッシュは、起業から就労支援までの「地域職業教育の1貫校」として、いままでも、いまからも、苦闘しかつ進化し続けている。

さてさて、今年3月に著した『詳伝 松田喜一』では、戦前から戦後にかけての西浜の皮革産業の盛衰と数多の人々の知恵と苦闘を物語風に描いた。その運動と生活の地域史をタテの糸とするなら、オー

近年、市営住宅の自治会から住宅内の清掃やごみ庫の清掃、低木や雑草の伐採、会計報告や自治会としての会議の持ち方など、様々な相談が「ゆ〜とあい」に寄せられている。大阪市営住宅の管理業務は2020年から指定管理者制度を導入しており、先般の入札の折に、入居者の高齢化や外国人入居等といった変化への対応の難しさを踏まえるよう、地域から提言を行った結果、自治会支援等を含む住民サービスの充実を入札要件に含めてもらった。

しかし、指定管理者となった現在の住宅管理センターに相談しても、作業等については外部の事業者を紹介されるだけ、また、自治会の運営は住民によるものだという理由で積極的に支援してくれないのが実情だ。

日々相談を受けている「ゆ〜とあい」は、大阪市から委託されていないので、残念ながら何の権限もない。大阪市には入札要件に盛り込んだ住民支援を積極的に進めてもらいたい。(寺本良弘)

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



ラウンドは浪速・西成の区境を越えたヨコの糸、生者と死者多数の人々が織りなすこのまちの物語だ。こんなイベントが予告編となって、いよいよ本編が綴られていくことを期待したい。本編とは、産業が興され、仕事が生まれ、街が活きづく「三毛作」の物語なんだが、靴皮革産業だけでなく、福祉や都市サービス産業などにも広がらないかなあど夢見ている。Aダッシュにそんな期待がある。関係者各位のご苦勞に感謝しながら、参加を請いたい。

靴のつむじ7号はこちらよりご覧いただけます。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



[若松司]約50年前に開催された大阪万博の会場跡地には昔日の未来都市が現存する。その街の建物の外壁タイルが秋の日に照らされているのを見ると、幼い頃の感覚が一瞬、甦ってくるのであった。



[山村裕太]「知らんけど」という言葉は大阪では良く使われますが、東京などの関東方面では責任逃れのように聞こえ、あまり使われることはないようです。知らんけど。

地域の縁を心でつなぐ

松向寺の 心の時間

父は五十歳で胃ガンを患い、胃を全摘する大手術を受けました。この病で命を落とす可能性が高かったのですが、父は余生を仏様から頂いた「おまけの人生」と喜び、私にとって最も印象深い言葉となりました。そこで葬儀の際、会葬者へのお礼文に「父は、おまけの人生を喜んでいました」と入れたつもりが、仕上がりでは「お」がとれて「父は、

まけの人生を喜んでいました」となっており、急いで修正したことを思い出します。「お」が有るか無いかでえらい違いです。

「同じく「おかげで暮らしています」から「お」をとると「かげで暮らしています」となり、感謝の心が消えます。先人は「お日様」「お月様」などと言葉に心を込めて発してきました。例えば「eat rice」は「米を食う」とも「お米を頂く」とも訳せますが、訳語にその人の心が浮き出されます。

グローバル社会になって外国の言葉が日常化しても、日本の言葉の中に日本人のアイデンティティがあります。そのことを大切にしたいものです。

松向寺 通法

ココドコ

ココはドコ？
わたしはぜんぜん？
編集部が厳選した
「にしなり100景」
大公開！

今回は難易度高め！キリギリスの触覚が雲梯(うんてい)になっているユニークな遊具。後ろに見えるのは住宅です。写真には写っていませんが、キリギリス他にクジラとアンコウもいるんです。ココがドコだか答えを知りたい人は、ゆ〜とあいの受付までお問い合わせください！

【先月号の答え】 南開2丁目5の市営ひらき住宅集会所でした！
ゆ〜とあいからも比較的近い場所です。



2023年3月撮影

ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび 11月号 (vol.201)

発行日:2023年11月1日(創刊日:2007年1月1日)

発行:株式会社ナイス

住所:大阪市西成区長橋 3-6-33

電話:06-6563-1150

E-mail:info@nice.ne.jp

url:https://www.nice.ne.jp/

編集長:西田吉志

編集:沖田一志、笹川勝正、田岡秀朋、福井龍磨、安田拓也、山村裕太、若松司(あいうえお願)

イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

(株)ナイス
ホームページ

